

市町村名	岐阜市	岐阜市 学校名 岐阜市立岐阜小学校				
校長名	藤田 忠久	対象学年	全校	人 数	3 3 2	人
項目	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援 学校等と連携を図った実践					
数当する項目に ○をつける	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・ 産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践					
	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等と の関連を図った教育課程を編成し、取り組んだ実践					
活動のねらい	コミュニティ・ティーチ 「学校支援・地域活用~	_				展

活動の特色・児童生徒の変容など

1 取組の経緯や実践の特色

岐阜小学校は、城下町と官公街を校区とする岐阜市中心部の二つの小学校が統合し、平成20年度に開校した学校である。岐阜市最初のコミュニティ・スクール(以下CS)に指定され、「ふるさと大好き」を合い言葉に、開かれた学校として家庭や地域と一体となった学校経営や教育活動を推進している。

生活科や総合的な学習の時間(3年「校区の伝統・ 文化」、4年「地域の福祉と生命」、5年「長良川」、 6年「岐阜まち」)には、地域の各種団体をはじめ、

地域素材を活用した教育実践の積み上げ

校区の人・もの・ことを効果的に活用した教育活動

まち探検で地域を学ぶ 2年生





岐阜小学校がもつ地域のよさを認識 →地域へのあこがれや誇りの育成へ

寺院、商店、施設、官庁等からコミュニティ・ティーチャー(地域の外部講師、以下CT)を招き、文化、歴史、自然、産業など、各方面からの話を聞いたりCTへの取材活動を行ったりして、自分たちが学んだ故郷の良さをまとめ、同学年や他学年の児童、保護者や地域の方々に発表していく学習を進めている。こうすることで、校区への理解と故郷への愛着を段階的に深めるようにしている。

社会科でも、総合的な学習との関連も図りながら、地域の人的・物的財産を効果的に活用した授業を行っている。社会的事象を「自分のこと」として捉えることができるよう、地域素材を教材として開発し、CTと共に考え学び合う学習を進めることで、子どもたちが「社会とつながる」実感を得られるようになってきた。今年度は、第57回「全国小学校社会科研究協議会」岐阜大会の第1会場校として、3年生は和菓子職人、4年生が水防団長、5年生は老舗旅館の若女将、6年生は歴史博物館の学芸員等をCTに招き、よりよい社会の実現を目指す授業を提案することができた。

これらの授業に、恒例となった「ふれあいフェスタ」等のイベントを加えた「ふるさと学習」は、児童のみならず、教職員、保護者、地域住民…等、学校に関わる全ての人々の自信や誇りへと繋がっている。岐阜小CSは、導入当初の「学校支援・地域活用型」から、「学校支援・地域参加型」を経て、持続可能な地域づくりへと向かう「地域創造型」の学校への進化・発展を遂げつつある。

2 児童やCTの様子(変容や成長)

子どもたちは「ふるさと学習」の学びを生かし、地域のために進んで活動したり、社会に向けて発信や提案をしたりすることができるようになった。特に社会科では、社会的事象を「自分のこと」として考えることができるようになり、社会の実現を目指そうとする姿につながってきたと言える。CTと活動したり、CTへの発信をしたりする中で、問い返しや切り返しを受けたときにも、既習内容や資料を根拠に、堂々と受け答えをすることができるようになってきた。それは、社会への関わり方を考える場などで、様々な立場に立って社会のことを考えられる姿につながったからだととらえている。CTのもつ専門的な知識・技能により、子どもたちの学習が質的に深まったり補完されたりしたと考える。

また、多くのCTが、学習サポーター、ボランティア・スタッフとして、「地域の学校に貢献できた」「自分が学校教育に役立っている」とやりがいを感じ、これまで以上に学校や地域への愛情や自信を高めている。高齢のCTからも「子どもたちから元気をもらっている」という声が寄せられ、CTとしての経験によって、笑顔が増えて幸福感をもつとともに、心身ともに一層健康な生活を過ごせると感じていることをうかがい知ることができる。